

## 総務省での経験を活かして市役所“経営”を



上尾市企画財政部参事

清水 啓太

Shimizu Keita

平成11年4月 自治省採用  
大臣官房会計課

平成12年4月 財政局財政課

平成13年4月 宮崎県総務部地方課

平成15年4月 内閣府経済社会総合研究所  
国民経済計算部国民支出課

平成17年4月 自治税務局企画課総務室人事係長

平成18年4月 自治税務局企画課調査係長

平成20年4月 自治税務局企画課企画係長

平成22年4月 上尾市企画財政部財政課長

平成23年4月 上尾市企画財政部次長

平成24年4月 現職

### 地方自治の最前線で行政経営

入省してから15年目を迎えました。霞が関では地方税財政制度の設計に携わり、宮崎県庁での勤務を経て、現在は上尾市役所で600億円を預かる財政の責任者をしています。行政を“経営”するという視点から、将来を見据え、見直すべきはしっかり見直すことにより強い財政基盤を確立するとともに、市民のために迅速な施策展開を実施するための予算を編成しています。市長に最も近いところで重要施策の創出・実行すること、すなわち、市役所での幹部を任されるということは、30代においては大変重責であり、時には厳しいことにも直面しますが、しかし、これらは霞が関で培った精神力や仕事に対する姿勢などあらゆる経験を最大限発揮することによって乗り越えてきました。ただ、それ以上に、心地よい緊張感と十分なやり甲斐に毎日が充実し、地方自治の最前線で現場主義の重要性を日々感じております。ここに総務省職員が地方で勤務する意味があるものと思います。

### 国と地方の様々なステージを経験

4年前の歴史的な政権交代後の混乱時、総務省にて地方税制度の改正を、仲間と一丸となって成し遂げたことが、自分を大きく成長させてくれました。また今年度、市の予算編成にて高齢者施策の見直しを行い、新たな事業を創出しつつも、現金給付である敬老祝金の縮減という、先を見据えた厳しい選択も行いました。このように総務省にはマクロ・ミクロの観点から様々な局面で力を出せるステージが用意されています。

### 国と地方の往来を通して得た財産

総務省では、地方自治制度における豊富な知識のほか、必要な解決力やスピード感、精神力などをしっかり身につけ、地方勤務ではそれらをフル活用して行政を“経営”します。その現場こそその視点や経験を、総務省の“地方を元気にする施策”に反映していくこととなるのです。国と地方の往来を通し、貴重な経験はもちろん、全国に多くの仲間をつくることができ、私にとってかけがえのない大切な財産となっています。